

新潟米 春作業の3大ポイント（臨時号）

平成 30 年 3 月 9 日
新潟県農林水産部

〔要約〕

平成 30 年産の作付けに向けて

◎ コシヒカリや業務用米など、目標とする食味や品質、収量を確保するには、健苗育成による良質茎の早期確保、品種に適した田植え時期、栽植密度の設定が重要です。

3大ポイント

- ◎ 浸種初期の水温が低い（10℃未満）と発芽揃いが悪くなるので、水温は 10℃～15℃を確保しましょう。
- ◎ 田植え時期は、コシヒカリでは5月10日以降、早生品種では5月上旬、晩生品種では5月中旬までとしましょう。
- ◎ 早生品種の「つきあかり」は、初期生育が確保しにくい地域・ほ場では栽植密度を上げ、坪当たり 70 株としましょう。

ポイント1 健苗の育成

- 浸種初期の水温が低い（10℃未満）と発芽揃いが悪くなるので、水温は 10℃～15℃を確保しましょう。
- は種日は、田植予定日及び育苗様式を踏まえ、適正な育苗日数になる日に設定しましょう。
- 千粒重の重い品種（つきあかり、北陸 251 号、いただき等）は、は種量を増やす必要があるため、地域の技術情報を確認してください。

ポイント2 品種特性を踏まえた適期の田植え

- 「コシヒカリ」の田植は、高温登熟による品質低下を防ぐため、5月10日以降とし、登熟可能な気温が確保できる時期に出穂するよう、地域の情報を参考にして晩限までには終了しましょう。
- 早生品種（ゆきん子舞、つきあかり、ちほみのり、新潟次郎）は、生育期間が短いので、早めに目標茎数を確保するため、5月上旬に田植えをしましょう。
- 晩生品種（あきだわら、いただき、北陸 251 号）は、登熟可能な気温が確保できる時期に出穂するよう5月中旬までに田植えをしましょう。

ポイント3 品種特性を踏まえた適正な栽植密度の確保

- 多収性品種に応じた適正な栽植密度を設定し、適正穂数を確実に確保しましょう。
- 早生品種の「つきあかり」は、初期生育が確保しにくい地域・ほ場では栽植密度を上げ、坪当たり 70 株としましょう。

品種名	栽植密度（株／坪）
新潟次郎、ちほみのり、つきあかり、ゆきん子舞	60 以上
北陸 251 号、あきだわら	60
いただき	50～60